

さいき先生&かじた先生のハートフル相談

「ここが、肝腎です」 じん

【Vol.22】 シリーズ：慢性腎臓病(CKD)と心臓病の意外な関係①



梶田達也先生



齋木豊徳先生

このコラムは「福德永会さいきじんクリニック」の院長・齋木豊徳先生、透析センター長・梶田達也先生が、腎臓の病気の知識や情報について解説。今回は梶田先生による3回シリーズ「慢性腎臓病(CKD)と心臓病の意外な関係」の1回目です。

今注目されている慢性腎臓病(CKD)って何？

腎臓機能が悪化して腎不全となり、人工透析治療を受ける患者さんが急増し、世界的な問題になっていきます。特に日本での増加が著しく、透析治療を受けている患者さんは約27万人と、国民500人に1人の割合です。生活習慣病である糖尿病や高血圧による腎臓害が原因で、透析を受け

る人が増加傾向にあり、腎臓の障害となった原因に関しては問いません。

これまで腎臓病への取り組みは世界中で盛んになってきましたが、軽症から重症までの腎臓病を広く包括します。その狙いは、腎臓病の診断や重症度の判定基準を、簡単な検査で分かる「糸球体過量

の値を用い、簡便・一律化する」ことで、医療従事者だけでなく患者さんにも自身の腎臓病の重症度を簡単に理解できるようにした点です。

「慢性腎臓病(CKD)」は、こうした背景を元に2002年にアメリカで提唱された比較的新しい腎臓病の概念です。検査結果で明らかになる蛋白(たんぱく)尿や血尿などの腎臓障害や、腎臓で血液をろ過・清浄する機能を表す「糸球体過量」を異常な低下が3カ月以上慢性的に続く状態をい

「慢性腎臓病(CKD)」の値を用い、簡便・一律化する」ことで、医療従事者だけでなく患者さんにも自身の腎臓病の重症度を簡単に理解できるようにした点です。

「慢性腎臓病(CKD)」は、こうした背景を元に2002年にアメリカで提唱された比較的新しい腎臓病の概念です。検査結果で明らかになる蛋白(たんぱく)尿や血尿などの腎臓障害や、腎臓で血液をろ過・清浄する機能を表す「糸球体過量」を異常な低下が3カ月以上慢性的に続く状態をい

「慢性腎臓病(CKD)」の値を用い、簡便・一律化する」ことで、医療従事者だけでなく患者さんにも自身の腎臓病の重症度を簡単に理解できるようにした点です。

の総称で、命にかかわる重大な疾患が多いのが特徴)の合併により死亡する危険性が高いことが証明されました。

実際に、腎臓病患者さんの主要な死因は心血管疾患であり、末期腎不全から透析へ至るよりも、それ以前に心筋梗塞(うそく)、解離性大動脈瘤(りゅう)、くも膜下出血、脳出血や脳梗塞などで亡くなる確率の方がはるかに高いことが知られています。

一方で心血管疾患が腎機能の低下・進行を招くことも明らかになっています。このため、CKDという新しい腎臓病の概念が導入されてからは、腎臓病診療の主題は、末期腎不全・透析への進行阻止と、腎臓病に合併して高確率で起こりうる危険性のある心血管疾患の予防と治療になります。

CKDと心血管疾患を同時に基礎にある生活習慣病の嚴重な管理・コントロールが最重要であることは言うまでもありません。

このため、本シリーズでは以降2回にわたり、今最も問題となっている生活習慣病の高血圧と糖尿病の2つと、腎臓および心臓疾患との関連と対策についてお話ししていきます。

今回は、「高血圧と慢性腎臓病(CKD)・心臓病の関係」です。

一方で心血管疾患が腎機能の低下・進行を招くことも明らかになっています。このため、CKDという新しい腎臓病の概念が導入されてからは、腎臓病診療の主題は、末期腎不全・透析への進行阻止と、腎臓病に合併して高確率で起こりうる危険性のある心血管疾患の予防と治療になります。

「慢性腎臓病(CKD)」の値を用い、簡便・一律化する」ことで、医療従事者だけでなく患者さんにも自身の腎臓病の重症度を簡単に理解できるようにした点です。

この記事に関する問い合わせなどは、同クリニック・腎臓病教室事務局の濱岡さんへ。
所在地 〒7200083 福山市瀬戸町山北4500-1
電話 084(949)2777
ホームページ www.saiji-cl.com/